

# 留学生視点の新潟県についてのアイデアソン 実施記録

—留学生の留学生による留学生のためのアイデアソンin新潟—

山中 智成、バウベククス ジャンサヤ<sup>1</sup>、大塚 晃、唐木 宏一、杉本 等<sup>2</sup>

## 要 旨

本稿では、著者らが行なっている「留学生の留学生による留学生のためのアイデアソンin新潟」（以下、本活動）を通じた新潟県および新潟市の活性化を目指した取り組みについて述べる。本稿の目的は留学生視点を大いに含めた、新潟の魅力についてを地元住民に発信することである。本活動ではテーマを「留学生自身の体験を活かした効果的な魅力発信」とし、その実現に向けて議論とフィールドワークを行った。この結果から得られたものは新潟県だけでなく「外国人×地域」の観光PRの可能性が大いに有効であると考えたからである。今回は2018年～2019年1年間、計4回にわたる本活動の内容と最終成果物について報告する。

## キーワード

留学生、観光PR、アイデアソン、地域活性化、新潟県

## 1 はじめに

新潟県では、観光立県の実現のために平成29年度3月より「新潟県観光立県推進行動計画」を推進してきた。計画期間は平成29年～平成32年の4年間であり、外国人宿泊数を計画開始時点の約3倍である50万人に目標設定した<sup>1</sup>。この行動計画の重点方針の中には東京オリンピック・パラリンピックの開催など、様々な機会を活かした首都圏・関西圏からの誘致拡大による全国的なオーバーツーリズムの回避も含まれている。

しかしながら、新潟県への外国人観光客数は全体の47分の1を下回る0.52%ほどである。従来の施策は現状に即していないと考えられ、「新潟県観光立県推進行動計画」はまだ十分な成果を上げているとはいいいにくい<sup>2</sup>。

観光の専門家が集い議論をするのはもちろんのこと、専門とは違った異業種・異分野・多国籍の人との出会いの中から新たなアイデアが生まれる可能性がある。

本活動は新潟県内に留学生を擁する5大学<sup>3</sup>が中心となり2018年12月に発足した。

本活動の第1回は「留学生による留学生のための住みよい新潟作り」をテーマにアイ

<sup>1</sup> 事業創造大学院大学 事業創造研究科

<sup>2</sup> 事業創造大学院大学 教授

<sup>3</sup> 事業創造大学院大学、敬和学園大学、新潟青陵大学、新潟大学、新潟県立大学

デアソンを行うというものであった。留学生が自ら率先して地域課題に取り組む姿勢を重要視することから留学生数名とその補佐で筆者（山中）がその運営を行うことになった。

## 2 実施内容

### 2.1 第1回報告

[日 時] 平成30年11月25日（日）13：00－17：00

[会 場] 新潟大学 駅南キャンパス ときめいと

[主 催] 大学連携新潟協議会ビッグデータ・オープンデータ活用研究会

[共 催] アーバンデータチャレンジ2018実行委員会

[参加者数] 31名 国籍：中国9名、ベトナム4名、カンボジア1名、カザフスタン1名インド1名、イタリア1名、日本14名

本活動主催の第1回「留学生の留学生による留学生のためのアイデアソンin新潟」には図1のように31名の参加があった。出身国が様々な中で、新潟の米菓やお寿司、笹団子などを合間に食しながらの議論は白熱したものとなり、1人1人がしっかりと発言した。今回のテーマは「留学生による留学生のための住みよい新潟作り」とし、各国が交じる形でグループを3つ編成。それぞれの留学生が抱えている課題や日常の悩みなどを議論した。

図1. 第一回参加者の集合写真



#### 〈アイデアソンの進め方〉

様々な留学生を集めるために、県内大学が参加している大学連携新潟協議会ビッグデータ・オープンデータ活用研究会の枠組みを利用した。また、アイデアソンの実施にはシビックテックであるCode for Niigata<sup>6</sup>に協力していただき、進行役を委任した。

### 〈アイデアソンの内容〉

- ・インプットセミナー「新潟県における起業・創業について」
- ・アイデアソン形式でのワークショップ「留学生による留学生のための住みよい新潟作り」

インプットセミナーでは新潟県産業政策課 長部様より「新潟県における起業・創業について」ご講演いただき、新潟のベンチャー企業などから事業を興すきっかけとなる事象についての理解を深めた。そこからグループごとのアイデアソン形式のワークショップを展開し、3グループから各グループの議論内容をポスター形式で発表した。アイデアソンのルールとして「原則として日本語でディスカッション」があり、留学生は日本語で議論を行い、結果をまとめ発表した。

### 〈発表（グループ順）〉

1. 李 欣然（新潟青陵大学） 「留学生の心理的支援について」

目的：精神的不安をサポートする

背景：一人暮らしが多く相談できる相手がない、勉強と生活の両立も負担である

解決策：外国語で話すことのできるカウンセラーの育成・相談窓口の開設

図2はグループ内で留學生活の不安を個々がまとめている様子である。

2. バウベククス・ジャンサヤ（事業創造大学院大学） 「新潟の魅力を発見しよう」

目的：新潟の魅力を発見し、楽しむ

背景：「新潟何もないじゃん」と言う割に観光地の名前は出てくる＝知られてない

解決策：次回までの課題

図3は新潟の観光地を列挙し、付箋でポスターに貼り付けている様子である。

3. レ・ティ・ジャン・フォン（事業創造大学院大学） 「外国人から見た新潟での就職活動と暮らし」

目的：外国人の採用率向上、雇用条件の改善

背景：給料が安い、インフラが整っていない（車社会）

解決策：企業をもっと知る機会がほしい、インフラの改善

図2 グループ1 議論の様子



図3 グループ2 ポスター作成の様子



## 2.2 第2回報告

[日時] 平成30年12月9日(日) 13:00-17:00

[会場] 事業創造大学院大学

[主催] 大学連携新潟協議会ビッグデータ・オープンデータ活用研究会

[共催] アーバンデータチャレンジ2018実行委員会

[参加者数] 27名

国籍：中国6名、ベトナム6名、カンボジア1名、カザフスタン1名、  
日本13名

本活動第二回目は前回のグループを引き継ぎ、パワーポイントでの発表がメインとなった。

事前に発表資料の作成をしてくる前提であったが、各大学間での横の連携が取れておらず、作成自体は全グループが当日行うこととなった。会場を事業創造大学院大学に移したほか、前回進行を委任したCode for Niigataには全体の確認をお願いし、筆者が進行を行った。当日は講評として新潟国際友好会館 事務局長の山田氏、新潟市国際課の諸橋氏、新潟県立大学の坂口教授にお越しいただいた。図4のように全体では27名の参加となったが、前回のグループ3のメンバーは都合がつかず、新規メンバーで同じテーマを少し掘り下げて発表する形となった。

図4. 第二回参加者の集合写真



### 〈アイデアソンの進め方〉

前回の活動の結果をシェアし、新規留学生の獲得に努めた。進行は筆者が引き継ぎ、Facebookグループページにて当日のレジュメ作成や参加人員の受付などを行った。また、前回当活動の進行役を委任したCode for Niigataには進行のサポートとして協力していただいた。

### 〈アイデアソンの内容〉

- ・資料作成
- ・成果発表

テーマは前回に引き続き「留学生による留学生のための住みよい新潟作り」。前回のグループ分け通りに3グループから議論の成果をパワーポイント形式で発表した。発表の際には新潟国際友好会館 事務局長の山田氏、新潟市国際課の諸橋氏、新潟県立大学の坂口教授に各グループに対する講評をいただいた。

### 〈発表（グループ順）〉

※内容・テーマは前回と同じであるため省略。

図5、図6のように各チームが登壇し、15分間でそれぞれのテーマについて発表した。

図5. グループ1発表の様子



図6. 講堂での発表の様子



## 〈成果物〉

第1回、第2回の本活動の結果を踏まえて3つの成果物が生まれた。

- ① アーバンデータチャレンジ (UDC2018) にて地域拠点新人賞を受賞 [3]
- ② 産学連携学会 第17回大会にて講演 [4] [5]
- ③ 留学生にいがた発見コンテスト<sup>7</sup>にてグループ①「留学生の心理的支援」が第3位を受賞

図7は表彰を受けるグループ1、李 欣然の様子である。各チームの発表の様子は図8を参照

図7. 留学生にいがた発見コンテスト受賞



図8. グループ2発表の様子



## 2.3 第3回報告

[日 時] 令和1年6月16日(日) 13:00-16:30

[会 場] 新潟市 駅南コミュニティセンター

[主 催] 留学生の留学生による留学生のためのアイデアソン実行委員会in新潟

[参加者数] 17名 国籍:中国3名、ベトナム2名、ウズベキスタン1名、カザフスタン1名、インドネシア1名、モンゴル1名、日本8名

前回の反省から、テーマをグループ2の「新潟魅力発見!」に変更し観光にフォーカスを当てたアイデアソンを開催した。運営体制も改めて「留学生の留学生による留学生のためのアイデアソンin新潟実行委員会」を設立し、筆者(パウベクズ・ジャンサヤ(カザフスタン))が代表を努め、筆者(山中)は副代表を努めた。今回はグループを3つに分け、新潟県の観光に関わるディスカッションを行い実際の観光プランを立てた。第4回はプランの実践を踏まえた最適なPR方法を提案するという内容で各チームディスカッションを行った。今回は留学生9名の参加があり図9のように計17名の参加となった。

図9. 第3回参加者の集合写真



#### 〈アイデアソンの進め方〉

前回から心機一転在学生の代替わりがあったため留学生に幅広く参加を求めた。テーマも多く留学生が楽しみながら参加できるよう「観光」に設定し、敷居を下げた。なお、県内大学が参加している大学連携新潟協議会ビッグデータ・オープンデータ活用研究会の枠組みを利用したものの、オープンキャンパスなどと日程が重なり、留学生は事業創造大学院大学だけの参加となった。また、前回に引き続きCode for Niigataに協力していただき、全体のサポート役を委任した。前回と大きく異なる点は実施母体が新設されたために場所の確保と全体のスケジュール調整が挙げられる。第3回～第4回の活動を通してのハッシュタグを設定し活動の様子が内外に分かるように心がけた（[#rniigata03](#) [#ideasonniigata](#) [#ryugakuseiniigata](#)）<sup>8</sup>。会場は、事業創造大学院大学から最寄りの新潟市駅南コミュニティセンターとした。駅南コミュニティセンターを借りる際のポイントを以下に記載する。

※ 駅南コミュニティセンター 予約のポイント

（予約）直接会場へ赴き、用紙の記入を行い申請する（団体名必須）

（料金）昼12：40～16：30 480円（当時）

（設備）プロジェクター（要申し込み）、スクリーン、ホワイトボード、縦看板

※ 無線LAN環境なしのためネット環境を使用する際はモバイルルーター等必須

（駐車場）20台完備 無料

## 〈アイデアソンの内容〉

- ・インプットセミナー
- ・アイデアソン形式でのワークショップ
- ・観光プランの立案

テーマは「新潟魅力発見!」。インプットセミナーでは新潟県観光課 青木様より「新潟県の観光・インバウンド政策」についてご講演いただき、実際に県が行っている活動に対しての理解を深めた。アイデアソン形式のワークショップでは実際に観光をしたことのある場所での印象や選定理由、新潟県の観光地で気になる場所、現在のPR方法について議論を交わした。観光プランの立案では、各テーブルに観光局から譲り受けたパンフレットを配置し実際に行ってみたい場所の選定と行き方の調整を行った。最後に各グループの今後の行動予定を1チーム10分で発表した。

## 〈発表（グループ順）〉

1. ダイスケ探検隊 リーダー：レ・ティ・ジャン・フォン

メンター：佐藤

観光プラン 清津峡→岩室温泉→ホテル鑑賞 7月6日実行予定（図10参照）

2. 何でも好きチーム リーダー：ファム・フォン・リン

メンター：山中

観光プラン 弥彦山に電車で行って山登り、足湯など観光 7月13日実行予定（図11参照）

3. ユウボクミンin新潟チーム リーダー：パウバククズ・ジャンサヤ

メンター：成田

観光プラン 弥彦山・寺泊観光 山と海を同時に体験 7月13日実行予定（図12参照）

図10 ダイスケ探検隊発表 図11 何でも好きチーム発表 図12 ユウボクミン発表





## 〈観光プランの実践〉

### 1. ダイスケ探検隊

#### スケジュール 案

8：30 新潟駅南口集合（図13）→ 10：30 清津峡トンネル（図14）  
 → 12：30 昼食 → 14：30 美人林や棚田 → 16：30 寺泊 魚のアメ横  
 → 17：30 岩室温泉、夕食 → だいろの湯 → 20：00 蛍鑑賞  
 → 21：30 新潟駅 解散  
 ※寺泊には時間オーバーで当日は寄らなかった

アウトプット方法：動画

参加者：14名（ダイスケ探検隊の声かけにより招集）

移動方法：自家用車3台

図13. 当日参加者の集合写真



図14. 清津峡トンネルにて



### 2. 何でも好きチーム

#### スケジュール 案

9：22 新潟駅出発 → 10：30 弥彦 → 11：00 弥彦神社  
 → 11：45 ロープウェイで山頂 → 12：00 昼食  
 → 13：00 山登り → 15：00 足湯（図15）

※途中でユウボクミンin新潟チームと合流（図16）

アウトプット方法：動画

参加者：5名

移動方法：電車・徒歩・シャトルバス

図15 弥彦にて足湯体験



図16 弥彦集合写真



### 3. ユウボクミンin新潟チーム

#### スケジュール 案

- 6:45 出発 新潟駅-吉田駅 (運賃 670円)  
→ 7:50 吉田駅-弥彦 成田さんの車で  
8:10 弥彦到着 (図17) ロープウェイチケット (1500円)  
→ 8:45 ロープウェイで山頂  
9:20-10:00 朝ご飯 10:00-山頂 (ゆっくりする)  
12:30-ロープウェイで降りる 13:00-14:00 弥彦神社 (図18)  
14:00-15:10 鳥ラーメン (1000円)  
→ 15:00 足湯 → 15:30 寺泊で食べ歩き  
16:30-17:30 金物見学

アウトプット方法：SNSの活用

参加者：5名

移動方法：電車・徒歩・シャトルバス・自家用車

図17 弥彦駅到着時集合写真



図18 顔出し看板が珍しく記念撮影



## 2.4 第4回報告

[日時] 令和1年7月21日（日）13:00-16:30

[会場] 新潟市 駅南コミュニティセンター

[主催] 留学生の留学生による留学生のためのアイデアソン実行委員会in新潟

[参加者数] 20名 国籍：中国3名、ベトナム2名、ウズベキスタン1名、カザフスタン1名、インドネシア1名、モンゴル1名、日本11名

第4回目を迎えた本活動は第3回での観光プランの実践報告と新潟県の効果的な観光PRについて成果物のお披露目を行った。会場やレンタル機材はそのまま引き続き使用し、インプットセミナーの新潟県庁観光課 青木様にもコメンテーターとしてお越しいただいた。また当活動を周知すべく新潟日報社などマスメディアにも声掛けを行い記事<sup>9</sup>に書いていただいた。最終成果物が一番魅力的なグループであったグループ1. ダイスケ探検隊には商品券を贈呈した。限られた時間の中で動画編集や資料の作成を行い発表したが、各グループが趣向を凝らした発表で会場では歓声が起こった。図19のように参加者は20名で、新潟日報社から1名、新潟市役所から1名の報告会見学を頂いた。

図19 第4回参加者 集合写真



### 〈アイデアソンの進め方〉

参加者を第3回の実践編に基づき公募、成果物の作成は各グループ内で役割分担の上実施し、事前にどのような発表になるかを調査し機材の準備を行った。進行内容はほぼ成果報告と総評であったため前回ほど大掛かりな準備を必要とせずに終わることができた。新潟日報社へのアポイントでは、記者が事業創造大学院大学に在籍していたためすぐに予

定を調整していただけたものの、選挙と日程がかぶっており個別でのアポイントは断られてしまった。マスメディアを効果的に使用する際は世間でどのようなイベントが開催されているかを確認しアポイントを取るとより効果的であるとの知見を得ることができた。

### 〈アイデアソンの内容〉

- ・ 観光プランの発表
- ・ 総評

テーマは前回同様「新潟魅力発見!」。各チームには30分の持ち時間の中で成果物の発表をしていただき、最後に新潟県観光課 青木様より講評を頂いた。新潟県の観光について動画発信やSNSなどのアイデアが一番効率的だという結論にいたったが、新潟県が作成するコンテンツとの違いは外国人視点であるということである。実際に観光プランを作成し、成果物をSNSなどに投稿したことが一番の成果だったと考える。

### 〈成果物〉

- グループ1 ダイスケ探検隊 (図20) 写真スライドショーを交えたイメージ動画
- グループ2 何でも好きチーム ドキュメンタリー風動画「弥彦どうでしょう」<sup>10</sup>
- グループ3 Instagram/Facebookに留学生による新潟魅力発見」アカウント・ページの公開<sup>11</sup>  
留学生SNSのフォロワー数に着目したチャンネル構築の可能性の追求

図20 ダイスケ探検隊の発表後集合写真



### 3 本活動の活用方法・課題

- ・コンセプト・テーマの絞り込みの上でアイデアソンを行えば有用
- ・PDCAサイクルのDoは「とにかくやる」時代に変化している

本活動では留学生視点での観光アイデアや生活を良くするための議論を行ってきたが、手放しに「どうぞ自由にやってください」では新潟に来たばかりの留学生は対応することができない。あらかじめ、コンセプト・テーマを実行委員会で絞り、あらかじめ実行委員に知らせることで、より効果的にテーマの深堀と研鑽を行うことができる。第4回の時点で事業創造大学院大学を中心に本活動は継続しているが、2019年度秋学期は活動できていない。新体制では新潟県内の各大学を巻き込んだ活動を継続的に行うこと、アイデアをアイデアで終わらせずに実行にまで至ることが今後の課題であると認識する。現代ではPDCAサイクルを回す事に意識が向きすぎる事業ほど実現に至る道が遠い。実現できるスケールの物から順に、とにかくやりきることが重要である。また、留学生にとっては日本人とこのような活動を通じて交流する機会は貴重であるため、他にも様々なテーマについて、今後も継続して場を作り活動していくことが重要であると認識している。

### 4 おわりに

本活動では「留学生の留学生による住みよい新潟」からはじまり、「新潟魅力発見！」を通じて魅力的な新潟県を再発見する試みを1年間で計4回実践した。あらためて「新潟県観光立県推進行動計画」を参考に現状の新潟県内観光を企画し行ってみると、インフラ問題や多言語化など課題が山積みであることがわかった。本活動の結果は新潟県の目標に対しては微々たる結果であるが、「新潟魅力発見！」の活動規模が大きくなればなるほど、参加する留学生が増えるほどフォロワーなどを通して新潟県の認知度が向上することは間違いない。県として観光の専門家が集い議論をするのはもちろんのこと、本活動のように異業種・異分野・多国籍等の多様性を有する人の出会いの場を創出することで新たな事業が生まれることを期待する。

---

#### 【参考資料】

1. (出所) 新潟県観光立県推進行動計画～うまさぎっしり・魅せる新潟アクションプラン～  
URL: <https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/50624.pdf> (2020.2.20 参照)
2. (出所) 訪日ラボ 新潟県のインバウンド需要・対応状況まとめ  
URL: <https://honichi.com/areas/koshinetsu/niigata/> (2020.2.20 参照)
3. (出所) アーバンデータチャレンジ (UDC2018) 大学連携新潟協議会

ビッグデータ・オープンデータ活用研究会

URL: <https://urbandata-challenge.jp/highlight/udc2018-regional-newface-niigata> (2020.2.20 参照)

4. (出所) 事業創造大学院大学ホームページ

URL: <http://www.jigyo.ac.jp/6041/> (2020.2.20 参照)

5. (出所) 杉本等、耿林恵、Ha Xuan Thao、大塚晃、唐木宏一：“新潟における産学官民による留学生のアイデアソン”, 産学連携学会 第17回大会,0620D1330-1 (2019-06)

6. (出所) Code for Niigata URL: <https://www.codeforniigata.org/>

7. 留学生新潟発見コンテスト

大学院・大学・専門学校等に在籍する留学生が4つのテーマからひとつを選び、新潟での暮らしの中で感じたことを日本語で発表するコンテスト

(出所) URL: [http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/kokusai/oshirase/contest\\_2019.html](http://www.city.niigata.lg.jp/shisei/kokusai/oshirase/contest_2019.html)

8. アイデアソン、留学生をキーワードにてハッシュタグのまとめサイトを作成し発信した。

(出所) URL: <https://togetter.com/li/1366810>

9. 第4回活動の様子が2019年7月25日の新潟日報 朝刊に掲載された。

10. YouTubeで公開「弥彦どうでしょう」2020年2月20日参照 (出所)

<https://www.youtube.com/watch?v=lSyJGWDv0ek>

11. 留学生による新潟魅力発見ページ (出所) <https://www.facebook.com/ryuugakuseiniigata/>